

みどころ

妻沼ねぎ

妻沼ねぎは利根川右岸に広がる低地で栽培されています。妻沼ねぎの特徴は、甘く柔らかい白い部分が多いことです。ネギは陽が当たると緑色の部分が多くなりますが、妻沼ねぎは土寄せにより白い部分が多くなるように栽培されます。特に冬のネギは凍結による細胞膜の損傷を防ぐために糖を形成し甘くなります。(HS)



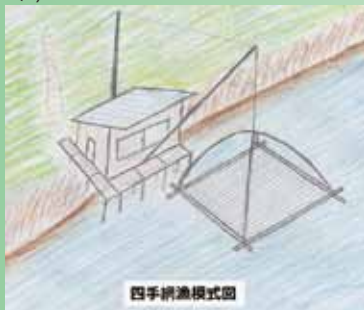
河岸砂丘

妻沼市街地の東には河岸砂丘があります。妻沼で吹く強い冬の季節風によって一度堆積した砂が風に飛ばされて形成されました。この河岸砂丘の上に利根川の氾濫を防ぐため先人により善ヶ島堤がつくられました。この他にも、自然地形を生かした堤防の構築が進められてきました。(HS)



四手網漁

四手網漁とは、正方形の網を水に出し入れすることで魚を採る漁法です。福川下流の福川水門付近では、4m四方の大型の四手網を利用した漁が盛んに行われていました。最盛期は昭和20年代で、この漁をするための小屋が川岸に25軒ほど並んでいたそうです。今では、水質の悪化で漁獲量が減り、継承者もほとんどいません。(II)



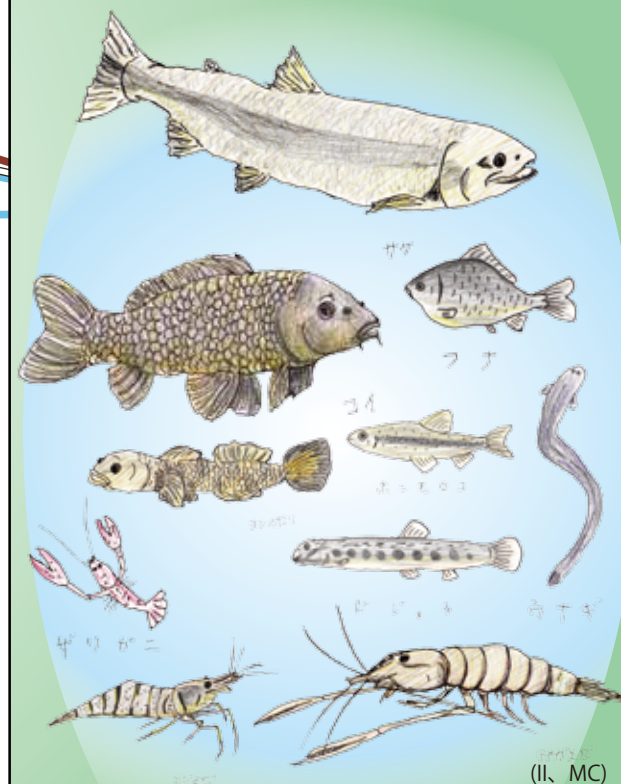
水塚

妻沼では周囲の河川のからの洪水がたびたび発生していました。そこで洪水の被害を減らすために、周辺より高く盛土をした部分が水塚です。普段は食料を保管し、洪水時には住民も避難して身を守りました。(HS)

妻沼の水塚



妻沼で見られる水生生物



利根川、福川などには漁業権が設定されている魚種が生息しています。釣りなどを行う際には、遊漁券を購入し、遊漁規則を守りましょう。また、特定外来生物に指定されているブラックバス（オオクチバス、コクチバス）、ブルーギル、チャネルキャットフィッシュ（アメリカナマズ）のリリースも、埼玉県内水面漁場管理委員会により禁止されています。